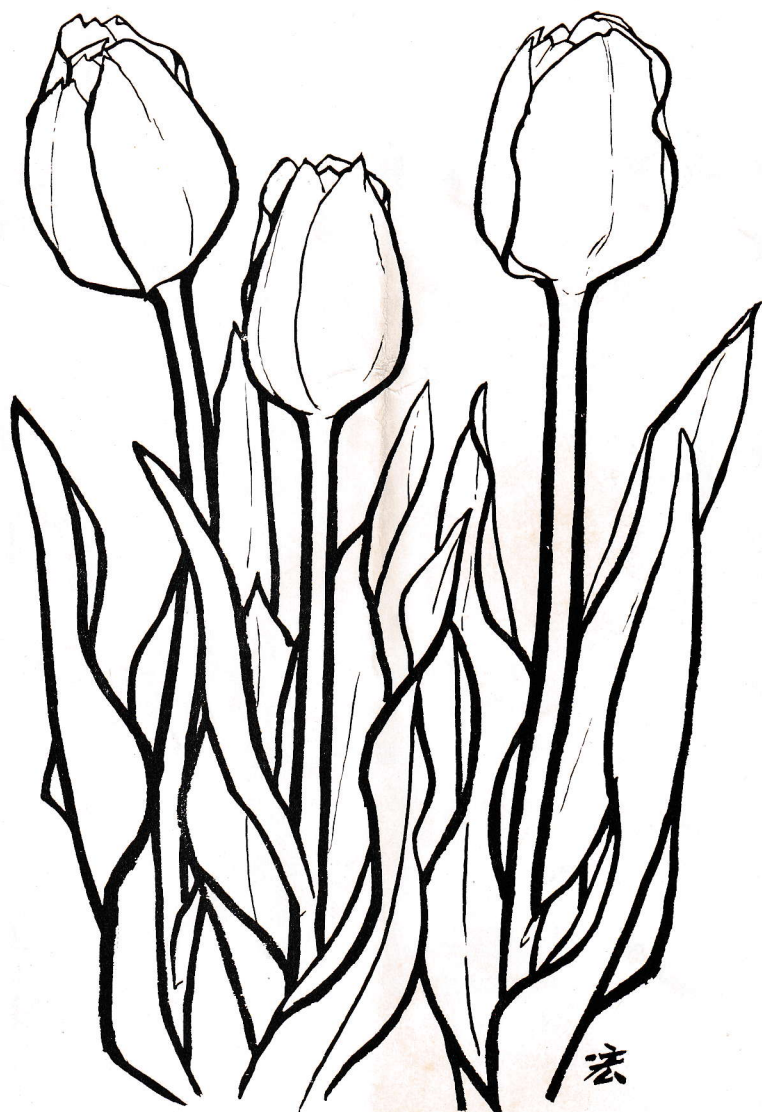


NAGOYA GAKUIN GLEE CLUB

1967. 2. 11 (土) p.m. 2.00

第 2 回 リ サ イ タ ル 中 区 役 所 ホ ー ル



メ ッ セ ー ジ

——名古屋学院高校校長 柴 山 満——

歌えるということは幸福なことです。どんな時にも歌うことができるようでありたいものです。中学時代からすきで歌い続けてきた私は、いま校長という職務の故にその喜びと幸福を十分に堪能することができません。はやくこんな職にあっても歌えるような生活になりたいと思っています。

私たちの歌う歌がただ自分の満足のためだけでなく、人を喜ばせまた勇気づけていくものでありたいと思います。そしてもっと高さ^{いさ}と深さと真実が脈々と伝えられるようなものです。私たちの口が、喉が、胸のなかのあふれる息吹を大きなエネルギーとして世にだせるようにみなさんの精進を期待しています。その意味でこの発表会がその一つの道標となるようにして下さい。

今日おきき下さる会場のみなさん生徒達を暖かく叱ってやって下さい。

——名古屋学院グリークラブ 佐々木伸尚——

いま人気絶頂のおはなはんのよく云う言葉に、「やっても見もしないであきらめるのは、きれいじや」、というのがある。それは私も賛成だ。いまの高校生にはそんな若さみたいなものが欠けているように思える。

グリークラブもリサイタルを開くほどの力量もないし、やってみようと云う意志にも不足を感じる。だから、やめると云うのはいかにも負け犬根性だ。そんなことで充実した一生を生きられるはずはない。と思って無理を承知でここまでこぎつけた。

もちろん、良い演奏をしたい。しかし、それよりも、受験に追いかけられ、家では、「いつまで歌なんか歌っているの」などと云われながら続けて来た。一人一人のメンバーに、惜しめない拍手をおくってやっていただきたい。

——名古屋短大付属高校合唱団 大 谷 和 雄——

発表会おめでとうございます。

昨年のアンコールで皆さんが歌われた「鉄腕アトム」が、まだ耳に残っています。左の方で、大きい口を開いて額に汗していらっしやった人も、右の方で、目立たせまいとして大きい体を小さくしていらっしやった人も、まん中でしっかりふんばっていらっしやった方も……。

とても楽しい演奏会でした。今もこの明るさ楽しさがいっぱいでしょう。

コンクールの前にお邪魔したとき、あの熱心な歌いぶりも忘れられません。「どうか、みなさんお願いします。……」その気魄にびっくりしました。

すごい熱意でした。今年もこの情熱がいっぱいでしょう。

いつ、どこでお会いしても、グリーの皆さんはにこやかです。どの方も仲が大変よいようです。などやかなハーモニーです。今年もこの「心のハーモニー」がいっぱいでしょう。

プログラム

I ドイツ・ミサ より

1. 入 祭 文 に
2. 栄 光 誦 に
3. 信 經 に
4. 三 聖 誦 に
5. 終りの合唱

F. シューベルト 作曲

II いろいろな国のいろいろな歌

<アメリカ> The Church in the wildwood

W. S. Pitts 作曲

津 川 主 一 編曲

<イギリス> アフトンの流れ

J. E. Spilmar 作曲

津 川 主 一 { 訳詞
編曲

<ドイツ> 鉄 道 開 通

吉 丸 一 昌 作詞

H. Marschner 作曲

<スペイン> 追 憶

ス ペ イ ン 民謡

吉 岡 吉 雄 訳詞

小 山 田 弘 編曲

<日 本> おれたちの歌

熊 谷 昭 吾 作詞

佐々木伸尙 作曲

Ⅲ 冬と雪とスキーの歌

1. かあさんの歌
2. 白い想い出
3. 冬の夜
4. 冬が来ると
5. スキー

小山田 弘 編曲

窪田 聡 作詞・作曲

山崎 堆 作詞・作曲

小学校唱歌

小林 純一 作詞

中田 喜直 作曲

文部省唱歌

平井康三郎 作曲

Ⅳ 日本 の 歌

1. ふるさと
2. 林にきて
3. 初 鮎

室生 犀 星 作詞

磯部 淑 作曲

伊藤 整 作詞

高田 三郎 作曲

中 勘 助 作詞

多田 武彦 作曲

音をつくり

音をそだてて

音をひろめる

カワイ ピアノ オルガン

株式会社河合楽器製作所 名古屋支店

名古屋市中区錦3丁目15番18号 電話 962-7211 番

名代

なまずや

電車道
(971)電停西北入る
四四三三二二〇二

パート紹介

テナーⅠ

A：我々のパートは、ほとんど主旋律を歌うので他のパートに比べて楽しい。しかしそれ以上に苦しい。限界以上の高い音を出すために長い年月の中に忍耐をもって努力していかなければならないからである。（実はほんとうのテナーの声をした人はいないんだ）

B：苦しうに歌っている時の顔といったらまるで、動物園の………みたい。しかし大切なのは、中味が濃いのか、薄いのか（中味というのは声の質の事だよ。）とにかく、僕達のパートは楽しく、また苦勞もするよ。

バリトン

「バリトン？なんだいあれは、ヒデーもんだ。」最初はこんな声もありました。ちょっと高い声の人はTannerにさらわれ、又、チョッピリ低音の人はBassに引き抜かれて、結局売れ残りの集まりがバリトンというわけです。しかし、この「カス」連中によって、どのパートよりもつかみにくい音と取り組んで、やっとここまでたどりつくことができました。そして今では、………みなさんにこう言われます。「グリーあってのバリトン、バリトンあってのグリーだ。全くだいい顔だ。（関係ないかな？）」今回はバリトンソロは少ないですが、メロディーに乗っかるハーモニーのよさをゆっくりと聞き味わってチョウダイ！

テナーⅡ

未来に永遠の可能性を秘めたパート………少しオーバーですが（冬だから………）実際それほどむずかしく、もっと伸びる可能性があるということなのです。内声のために、バリトンと同様あまり目立ちませんが、あの重厚はハーモニーを出す場合、たいへん重要なのです。

「音がさがった」「もっと明るく」「……」と、くるうとすぐにセカンドに視線が注がれてきました。が、最近では、どうしたことか、それが、他のパートに移ったようです。

（実際、よくなったのか、小さくて聞こえないのか？）

このリサイタルには、出席率第一位の努力によって臨みます。

ベース

ベースは男声合唱の基をなしていて、男声合唱のあの迫力あるハーモニーを作るには、なくてはならないパートです。が今年度のベースは去年一昨年に比べると、迫力・響き・声量が落ちてしまい（良くなったのは人柄と顔だけ）一番最良のコンディションにある二年生が、4人もやめてしまって活気のほうもなくなってしまいました。が、それなりにガンバッテ来ましたが、何かとお聞き苦しい点が有りまして、どうぞ我慢して、最後までお聞きください。

MEN'S SHOP

みぎ

名古屋・栄町地下街

TEL (961) 6 0 7 2

一年間の思い出

'66

- 2月12日 <第1回リサイタル>——中区役所ホール
×子ちゃん曰く、「歌はともかく、楽しかったワ……ボンボンボンボン タララッ
タッタ……」
- 2月14日 <役員改選>
新しい幹部も決まったし、みなさん大船に乗った気でまかせてチョウダイ!
- 2月16日 <卒業式サービス>
おめでとう! センパイ。ぼくたちの歌、一生の思い出になったでしょう。
そんな□な歌は死んだって忘れないって?
- 4月6日 <入学式演奏>
二年生もやっと先輩気分になりました。よかったナァ……
「さあ、後輩をシゴクぞ」
- 4月9日 <クラブ紹介演奏>
運動、文化、クラブ同好会合わせて60余、こんなにたくさんのクラブの中でもグリー
ーほど楽しいクラブはないと思うヨ。ドンドン入れるつもりか……チョット数えて
みて下さい。
- 6月25日 <合唱連盟交換会>——名古屋学院チャペル
暑かった、熱かった……マア イロイロ あらーな、各校の交友関係深まる。会場
がある程度せまかったのも関係するのでしょうか。
- 7月23日 <NHKコンクール>——名古屋学院チャペル
5日前から、練習開始。再び暑い中を5、9、6、3。ぼくたちの結果? シェー!!
→この場合の発音記号を書くと「se:」となる。
- 8月8日 <夏期合宿>——瑞浪温泉
トップ1人を筆頭に、みんな合わせて18人……しめた! これはソフトができるぞ計
画どおり先生をまじえて飛んだり、はねたり。しかし、今年は、去年よりもまじめ
で、午前2時には就寝した。
- 8月11日
- 8月22日 <メサイア合同練習開始>——金城中学講堂
これからはいそがしくなりますよ。なにがァ?
- 9月29日 <愛校祭(文化祭)出演>
30日 やかましかった場内も、グリーーがでると、あまりのうまさに「シーン」
- 10月23日 <朝日合唱コンクール>——名古屋学院チャペル
マタマタ努力マタ努力高三までカリ出して大奮闘。結果は、名古屋……高校みごと
1位?。……ガッカリ
- 10月25日 <私学祭式典出演>——公会堂(4階ホール)
<私学祭(音楽祭)出演>——公会堂
たくさんの高校がそれぞれ実力発揮。ぼくたち部員数はコンクールのときより多か
ったように思われます。
- 12月23日 <「メサイヤ」演奏>——愛知文化講堂
みんな精一杯歌ったんだ。それでいいじゃないか。ネェー御同輩。
- '67 1月9日 <追い出しコンパ>
三年生「いい後輩を持って幸せだナー。グリークラブも今日限り……。」
二年生「先輩!」
一年生「泣くんじゃネーヨ。オイラ達も泣けるじゃネーカ云々」
幕……。

メンバー

顧問 佐々木 伸 尚
部長 川 口 賢 治
マネージャー 小 出 仁 美
会計 ト 部 信 洋

(パートリーダーは◎)

テナー I

2年 上 島 博 行
小 沢 実
◎朴 憲 郁
1年 柳 雅 人
山 本 実
中3 遠 山 雅 充
広 瀬 昇

テナー II

2年 伊 藤 祥 生
◎斉 藤 秀 樹
1年 牛 田 康 雄
瀬 瀬 恒 貴
細 江 均
平 野 幸 保
森 田 信 敏

バリトン

2年 加 藤 順 三
上 山 友 久
川 口 賢 治
◎川 円 和 喜 男
山 田 貫 治
1年 加 藤 孝 文
谷 山 直 人
坪 井 康 博
御 友 重 和
宮 村 進
中3 柳 沢 講 次
斉 藤 洋 介

ベーン

2年 ト 部 信 洋
小 出 仁 美
◎島 村 博 幸
水 谷 共 美
1年 岩 田 博 充
加 藤 和 利
野 村 武 史
中3 白 井 学



OZAWA GANKYO TEN

正しいメガネで学力向上

名古屋学院関係者 2割引
名古屋学院生徒

小沢眼鏡店

241 — 4 5 6 0 251 — 8 3 6 4

OZAWA GANKYO TEN